

## 第 250 回記念リレー講演会 (経営)

■日 時 : 2022 年(令和 4 年) 11 月 17 日 (木) 14:00~17:30

■会 場 : 信州大学繊維学部内 AREC+Zoom によるハイブリット開催

■参加費 : 無料 ■定 員 : 会場 70 名 オンライン : 100 名

■主催 : 東信州次世代産業振興協議会・一般財団法人浅間リサーチエクステンションセンター

■後援 : 八十二銀行、上田信用金庫、商工中金長野支店、長野県信用組合、長野銀行(連携協定金融機関 5 行)

## リレー講演会開催第 250 回を記念して地元企業トップに講演をお願いしました

第 1 回リレー講演会は 2002 年 8 月 29 日に開催し、信州大学繊維学部の研究紹介からスタートしました。22 回からは企業人にも登壇していただき、43 回からは複数の講師による月 1 回の開催が定着しました。講演テーマも時代を反映し、技術分野のみならず金融や経営、環境・エネルギー、情報・DX などと広範囲になっています。

## 講演 1

14:05~15:20

## 【演題】「会計は現代経営の中枢」

講師: 税理士法人 小山会計 代表社員 小山 秀喜 氏 公認会計士 税理士

概要:

## I.はじめに

- ・自己紹介 ・公認会計士業界、税理士業界について
- ・会計事務所の仕事について
- 事例紹介/事業承継(成功例・失敗例)事例、M&A 事例、 企業再生事例

## II.経営のための会计学 実践的基本原則

京セラ創業者、稲森和夫氏の著書を引用し会計の重要性を解説します。(稲森氏の著書の抜粋は次ページ)

- 1.キャッシュベース経営の原則
- 2.一対一対応の原則
- 3.筋肉質経営の原則
- 4.完璧主義の原則
- 5.ダブルチェックの原則
- 6.採算向上の原則
- 7.ガラス張り経営の原則

## III.おわりに

~~ 休憩 15:20~15:30~~

## 講演 2

15:30~16:45

## 【演題】「HIOKI の理念」を通して社会に貢献する

講師: 日置電機株式会社 代表取締役社長 岡澤 尊宏 氏

【概要】: 当社の企業理念「HIOKI の理念」は、「人間性の尊重」と「社会への貢献」、この 2 つです。

私が、入社するきっかけは、当時社長の新聞取材記事を読んだことです。その新聞記事には、『会社とは、人を幸せにする社会システムの一部ではないか、人間には根源的に向上したいという気持ちがある。これが顕在化、意識革新になり、結果的に生産性の向上、業績に結び付く。』とあり、こうした「ひと」重視、「ひと」尊重の理念に惹かれ HIOKI へ入社し現在に至っております。

人間性の尊重とは、個人の性格や適性を尊重し、能力を育成していくことにより、その個々の可能性と組織の目標との調和を高い次元で結ぼうということです。社会への貢献とは、社業を通して社会の発展に貢献すること、また、良き企業市民として地域社会の教育、文化の向上など地域社会の発展に役立つこととしています。この HIOKI の理念を礎に、昨年より長期経営方針としてビジョン 2030 を掲げ取組をスタートしています。2030 年の私たちのありたい姿として、『HIOKI は、業界のフロントランナーとして「測る」を進化させ続け、世界のお客様と共に持続可能な社会をつくるソリューションクリエイターになる』と明言しました。持続可能な社会づくりに貢献するための活動事例等、お話をさせていただければと思います。

~~ 交流会 (予定) ~~

16:45~17:15

●お申し込み先 AREC・F i iプラザ事務局 宛

AREC のホームページ (<http://arecplaza.jp/>)

第 250 回リレー講演会【申込フォーム】からお申し込みください。

または 電話 (0268-21-4377)

FAX (0268-21-4382) メール

[メール \(mousikomi@arecplaza.jp\)](mailto:mousikomi@arecplaza.jp)申込 QR コード  
裏面に続く

**(ご参考)**

「実学」経営と会計 稲盛和夫著 日本経済新聞社発行より(1998年発行)

まえがき 今こそ求められる「経営のための会計学」より

『経営者は、自社の経営実態を正確に把握したうえで、的確な経営判断を下さなくてはならない。そのためには、会計原則、会計処理にも精通していることが前提となる。

それほど重要な会計というものが、日本では後追いの仕事でしかないと考えている。

中小企業の経営者の中には、税理士や会計士に毎日の伝票を渡せば、必要な財務諸表はつくってもらえるのだから会計は知らなくていい、と思っている者もいる。経営者にとって必要なのは、結果としていくら利益がでたか、いくら税金を払わなくてはならないのかということであり、会計処理方法は専門家がわかっているといいと思っているのである。さらに、会計の数値は自分の都合のいいように操作できる、と考えている経営者さえいる。

会計は「現代経営の中核」をなす 経営に関する数字は、すべていかなる操作も加えられない経営の実態をあらわす唯一の真実を示すものでなければならない。会社の実態を100%正しく表すものでなければならない。なぜなら、これらの数字は、飛行機の操縦席にあるコックピットのメーターの数値に匹敵するものであり、経営者をして目的まで正しく到達させるインジケーターの役割を果たさなくてはならないからである。

このような考え方にもとづき、私は経理部に経営資料を作成してもらい、その数値をもとに経営してきた。その結果、京セラや第二電電もバブル経済に踊らされることなく堅実に発展を続けている。今振り返ってみると京セラ創業時、会計というものを全く知らなかったため、それを自分で学び、「人間として正しいことを追求していく」という自分自身の経営哲学をベースに「会計の原則」を確立できたことが、その要因である。

少し過激な表現であるが「会計がわからなくて経営ができるか」という思いで出版させていただいた。』

AREC・Fiiプラザ 第250回リレー講演会(経営) 参加申込書 2022年11月17日(木)

企業・機関名			
参加者名	どちらかにチェックしてください 会場参加 <input type="checkbox"/> オンライン参加 <input type="checkbox"/>		
所属・役職		電話番号	
メールアドレス		ファックス番号	